

# 広報みつ

○漢方の話を少ししてみます

No. 506 1993年10月号：医師からの提言シリーズ⑬

ある日の外来診察室で“漢方先生”と患者の“がぜひい太さん”との話です。  
「先生、風邪をひいたようなんですけど。仕事を休むわけにはいかないので、何かいい薬はないのでしょうか。」

「それなら、今日は漢方薬を出しておきましょうか。」

「そんな薬で風邪が治るんですか。それに、保険のきかない薬はどうもねえ。」

「あなたには、今まで漢方薬を渡したことはなかったですね。少し説明をしてあげるので、その前に薬局で薬をもらって一服飲んでみてください。」

“かぜさん”は“漢方先生”に言われた通りに、少々苦い薬を看護婦さんにもらった水で飲んで、診察室に戻ってきました。

「先生が漢方薬と言うので、木の根か葉を渡されるのかと思ったけれども、普通の薬でしたね。」

「エキス剤といって、生薬を煎じたものを飲みやすく粉に変えてあるのですよ。そのまま飲んでもいいのですが、できれば次からは湯にとかして飲んでみてください。もちろん健康保険のきく薬です。昭和五十一年に保険が認められるようになったのです。漢方薬の種類は、病気に合わせて百種類以上もあるのですよ。」

「さっきもらったのは、どんな薬ですか。」

「葛根湯というものです。落語で、葛根湯医者というのを知ってますか。どんな病気でも葛根湯をだす医者のお話です。この薬はいろんな病気に効くので、それでも案外名医だったのかもしれない。葛根というのは、クズ湯のクズの根のことです。そのほかに、全部で七種類の生薬からできています。熱や寒気があったり、肩や首にこりがある時によく使うのです。もう少ししたら、からだは暖かくなってきますよ。」

「漢方薬が効く病気には、どういうのがあるんですか。」

「いろんな病気に使っていますよ。すべての病気といってもいいぐらいです。風邪のような急性の病気でもいいのですが、特に慢性の病気の時に効果があるようです。私は、慢性肝炎・慢性胃炎・気管支喘息・高血圧・動脈硬化症・更年期障害などの患者さんによく使っています。それから、現代医学でもなかなか治らない病気の時に、西洋薬とあわせて使ったりすることもあります。」

「副作用の心配はどうか。」

「あまりないですね。二千年以上の歴史があるので、その間に副作用があるか

どうかは十分確かめられたようです。ですから、体力の弱くなった人や、お年寄りでも、心配なく使えます。妊娠した人でもよく使います。ただし、使い方を間違えると副作用が出ることもたまにあります。そんな時でも薬をやめれば、すぐに元に戻って、大事にはなりません。」

「漢方薬が良く効いた人のことを数えてくれませんか。」

「七十歳の女の人で、十数年前から喘息があって、息苦しさが続くので、入院を繰り返していました。漢方薬を使い始めて数週間すると、少しずつ息苦しさが楽になってきました。西洋薬もいっしょに使っていますが、薬の量が少なくなってきました。発作の時にも、あまりイライラしなくなったようです。」

八十歳の男の人で、脳動脈硬化症に、老人性痴呆が加わってきた人がいて、家の人は世話が大変でした。漢方薬を飲み始めて二か月ほどしたころから異常な行動がなくなって、何とか身の回りのことができるようになってきました。

四十歳の女の人で、毎週目まいがあったのですが、漢方薬を使い始めると、ピタリと目まいがでなくなりました。夜も眠りやすくなりました。」

「漢方薬というのは、なかなかいいですね。先生、これからはいつでも漢方薬を使ってください。」

「かぜさん。漢方薬もいいところは多いけれど、病気によっては現代医学の薬や、手術が大切ですよ。その時のからだの調子を見て決めていきますね。ではおだいじに。薬はちゃんと飲んでくださいよ。」

先ほど飲んだ葛根湯が効き始めたのか、からだが暖まって少し楽になった“かぜさん”は帰っていきました。

最近、漢方のことが新聞に出ていたり、書店でも漢方の本が何冊か置いてあったりして、漢方治療への注目や期待が高まっているようです。病院でも、漢方薬を使う医師が増えてきています。漢方薬でどんな病気も治るわけではなく、あまり大きな期待をされすぎると困るのですが、その人の体質に漢方薬がうまく合うと、よく効きます。漢方薬の治療を受けてみたいと思う方は、一度相談してみてください。